

資料-3

大型模型実験の視察

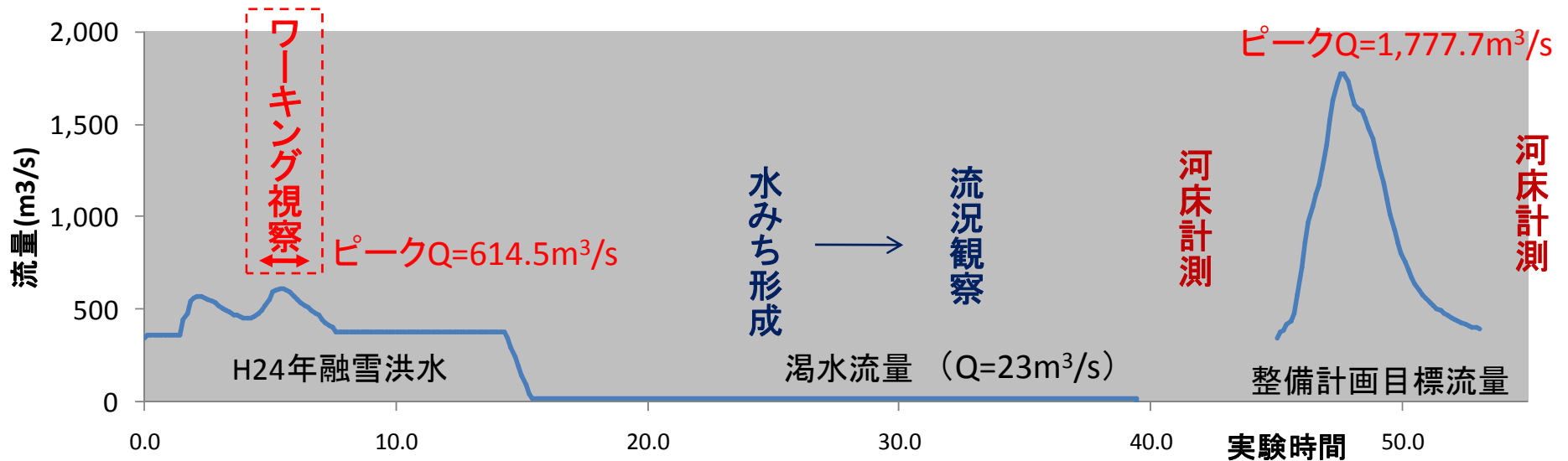
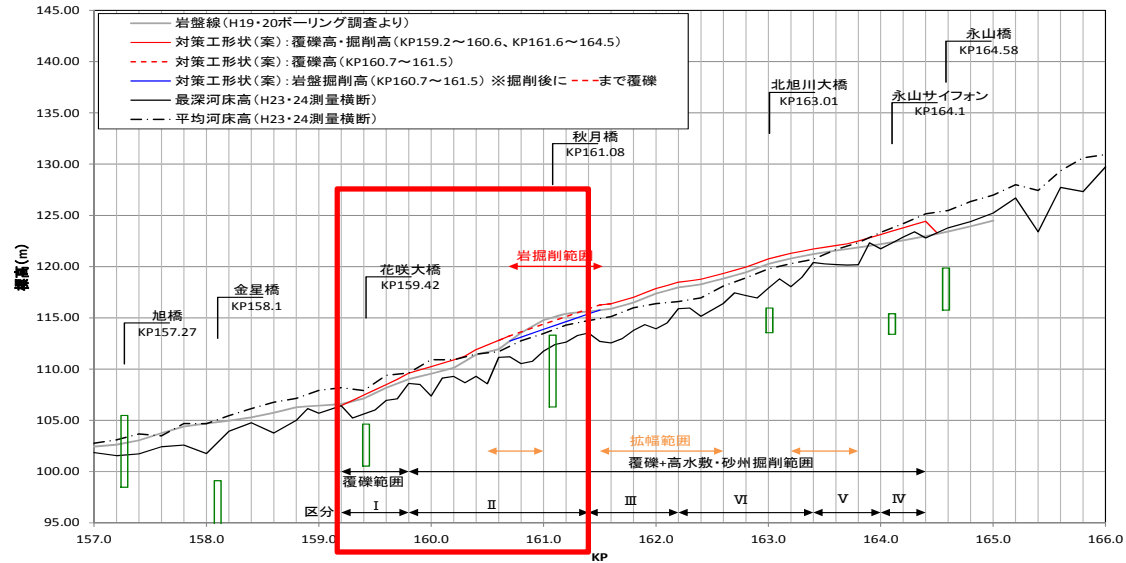
「段階施工による効果確認実験」

旭川開発建設部 治水課

本日視察していただく実験について

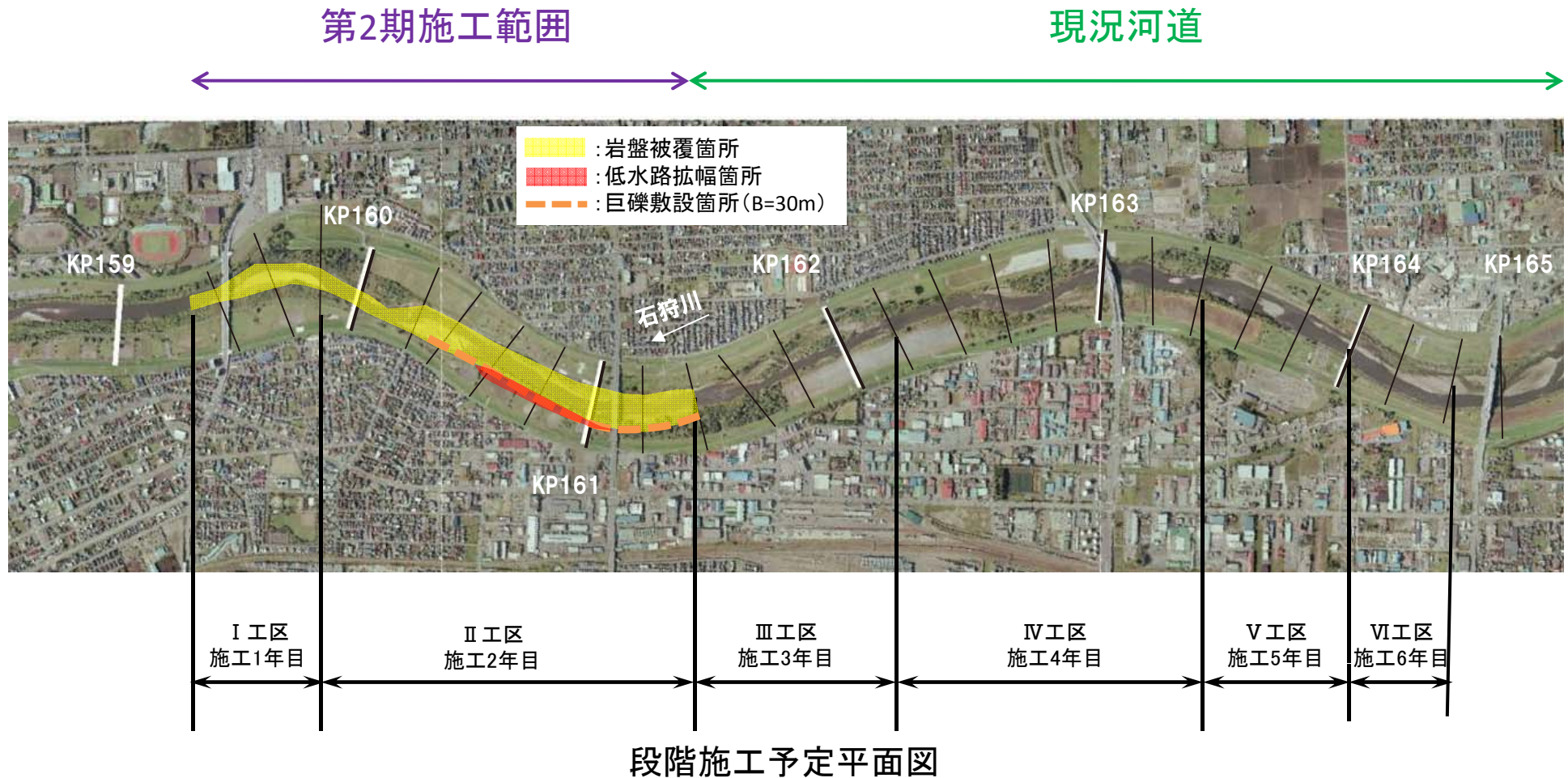
段階施工による効果確認実験の概要

- 第2期工事区間が完成した後の断面で河床低下対策工効果と影響を確認する予定です
- 通水流量は融雪、渇水、洪水の1サイクルを想定しています



段階施工(第2期)平面図

➤ 第2期工事区間が完成した後の断面で河床低下対策工効果と影響を確認する実験です



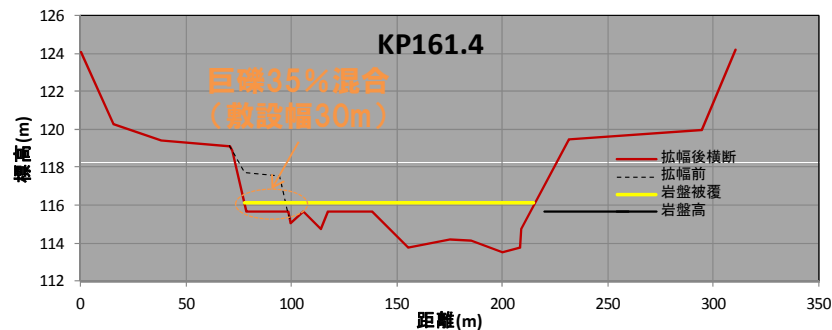
実験条件

➤ 本実験では、H24融雪洪水流量、濁水流量および整備計画目標流量を通水し、段階施工時の効果と影響を確認する。

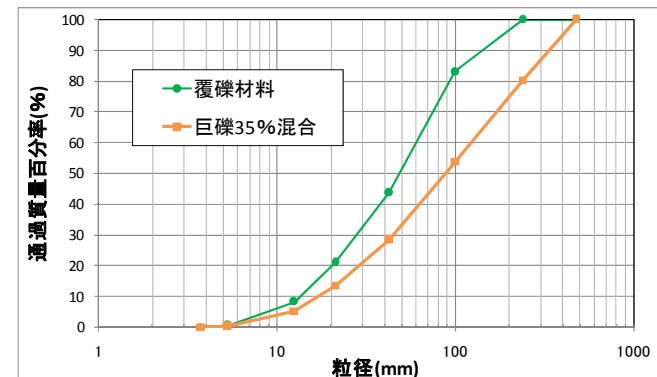
■実験条件表

条件項目		条件
初期条件	河床形状	H23年9月洪水後河床 (H23.9～H25.7測量)
	河床材料	H8年、H23年
上流端条件	流況	非定常流 ⇒ 定常流 ⇒ 非定常流
	流量	H24融雪洪水流量⇒ 濁水流量⇒ 整備計画目標流量
	流量観測所	旭橋 (KP157.1)
	給砂量	動的平衡 (芦田・道上式)
対策工条件	対策工	低水路拡幅+岩盤被覆 (=岩盤高+50cm) 岩盤掘削 (KP160.7～161.5)
	河岸際対策	①巨礫 (粒径150～350mmを35%混合)
その他	支川合流	あり
	河道内構造物	永山床止、橋脚、高水敷上樹林帯模型

■初期断面(岩盤被覆高=岩盤高+50cm)

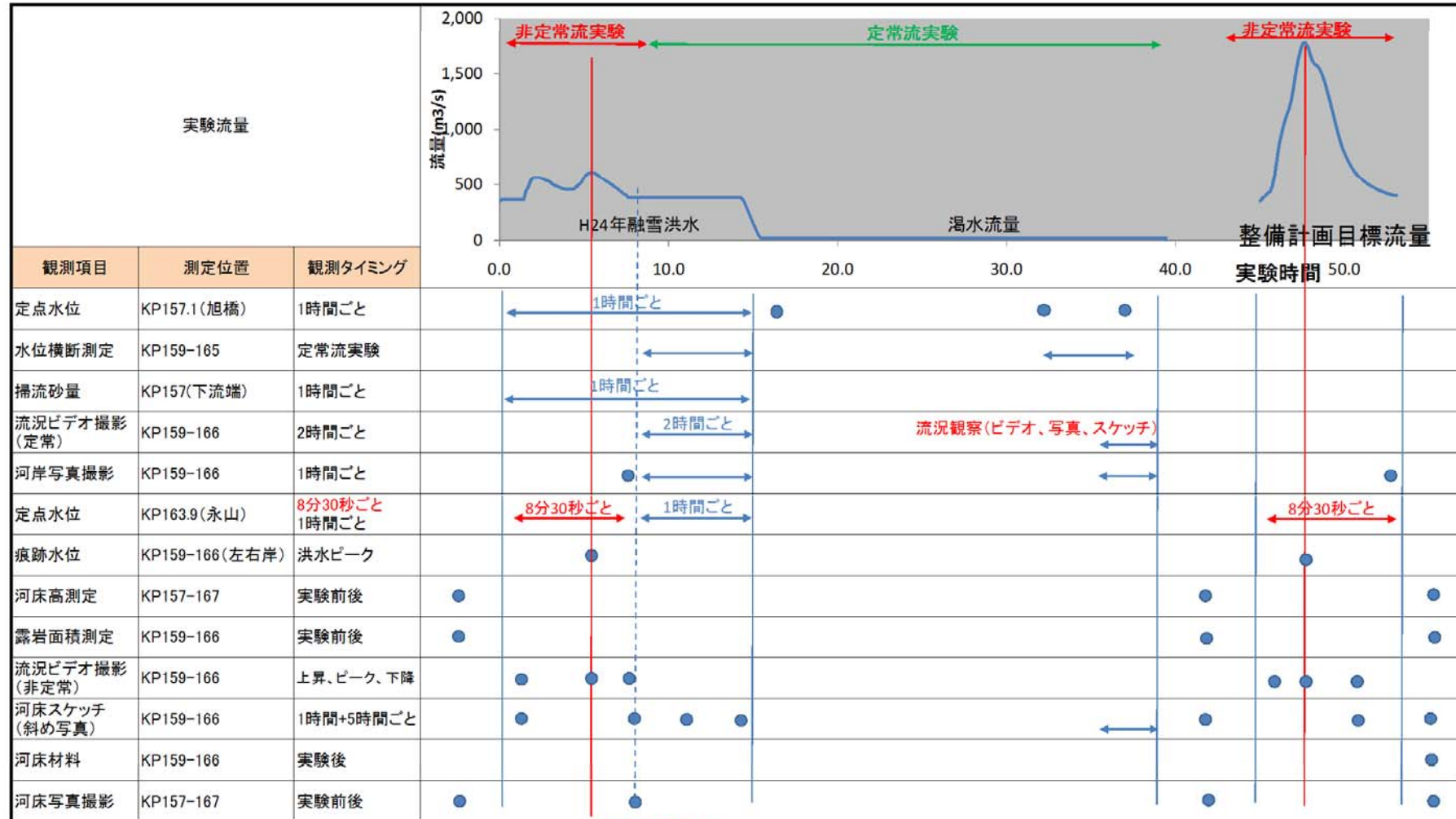


■初期河床材料(覆礫材料、巨礫35%混合)



実験の観測内容

- H24融雪出水(ピークQ=614.5m³/s)、湧水流量(Q=23.0m³/s)、整備計画目標流量(ピークQ=1,777.7m³/s)を通水し、第2期段階施工時の効果と影響を確認する
- 観測項目と観測のタイミングを以下にします



約8時間(通水停止)